2024 年度（秋学期）
Ateneo de Manila University（フィリピン）

Y.N.（人間生活学科・２年次生）

Ⅰ．留学レポート

① 留学を目指した理由

留学を目指した理由は、語学力の向上とフィリピンという国に対する自分の印象を変えたいと思ったことでした。大学受験の際、英語科目の勉強に取り組んだ結果、成績が飛躍的に伸びたことをきっかけに英語に興味を持ち始め、将来を見据えて日本語以外の言語も理解できるようになりたいと考えるようになりました。

また、幼少期にフィリピンを訪れた際にカルチャーショックを受けたことから、フィリピンに苦手意識を持っていました。大学生となり様々なことを学んだ今であれば、当時とは異なる視点でフィリピンという国を捉えられるのではないかと考え、留学を志望しました。

留学を考え始めた時期は、2 年生になる前の春休み頃です。

② 留学決定から出発までの準備期間

留学が決定した後は、出発までに 2〜3 か月ほど期間があったため、日々の語学学習に加えて、フィリピンの文化や生活様式についても積極的に調べました。

また、留学前の日本にいる段階では、留学のためのビザ申請は必要ありませんでした。

③ 現地到着後

現地到着当日は、空港内の SIM カードショップで SIM を入れ替え、スマートフォンを使える状態にしたうえで、配車アプリを利用してタクシーを手配し、学校へ向かいました。なお、スマートフォンが使えない場合でも、空港を少し出たところにあるタクシーカウンターで代わりに手配してもらうことが可能です。

空港から学校までは高速道路を利用して約 1 時間かかりました。学校の初日は、カリキュラム説明やクラスメイト紹介の後、授業が始まりました。ビザについては、現地で更新が必要でした。学校に手続きを代行してもらうことも可能でしたが、手数料や時間がかかるため、私は 2 回目以降、「SM モール」というショッピングモール内の窓口に行って自分で更新手続きを行っていました。

④ 語学研修機関

◆ 施設・環境・スタッフ

寮の部屋は 2 人部屋で、2 人で生活するには十分な広さがありました。

基本的には週に一度、清掃スタッフが部屋の掃除に来てくれるため、部屋は清潔に保たれていました。ただし、まれに清掃が行われない週もあり、その際にはロビーの警備員に伝えると、すぐに対応してもらえました。

寮内の警備員の方々はとても親切で、気さくに声をかけてくださいます。日本人の留学生が少なかったこともあり、日本人の顔と名前はすぐに覚えてもらえました。施設自体は清潔で快適でしたが、ウォーターサーバーの飲料水の質があまり良くなく、頻繁にペットボトルの水を購入する必要があった点は、少

し不便に感じました。

◆ 授業内容、課題、試験

授業は、午前中が Writing と Reading、午後が Listening と Speaking に分かれており、それぞれ毎日 3 時間ずつ行われていました。

生徒数が少なかったためか、先生の話を一方的に聞くよりも、会話形式で進められることが多く、実践的なコミュニケーションの機会が豊富にありました。

課題は基本的に出されることはなく、授業中に終わらなかった分が宿題として課される程度でした。ただし、セメスターごとに中間発表と期末発表があり、その際にはプレゼンテーションを行う必要があったため、授業外での準備が求められました。

試験は筆記ではなく、指定されたウェブページ上の文章を読んで質問に答える形式のものと、先生との個別面談が実施されました。

II．留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

毎日の放課後についてです。ALLC は大学の中にある語学学校ということもあり、アテネオ大学の学生と交流する機会もありました。

ただし、授業時間が 9 時から 16 時と長いため、朝食や昼食を一緒にとるのは難しい状況でした。夜になると、共同のキッチンで料理をしている際にほぼ必ず友人たちに会うことができ、そのまま一緒に食事をしながら会話を楽しむのが日々の楽しみとなっていました。

食後には、みんなで映画を観て感想を言い合ったり、ボードゲームをして盛り上がったりと、充実した時間を過ごせました。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

苦労したことは、食生活です。フィリピンでは肉料理が中心であり、新鮮な野菜を食べるのが非常に難しかったです。

野菜を摂取するには、自炊をするか、約 2,000 円するサラダボウルを購入するか、あるいはサブウェイに行くという限られた選択肢しかありませんでした。また、マニラでは新鮮な魚もほとんど手に入らず、栄養が偏りがちになるため、日本から栄養補助食品やサプリメントを持参するのも有効な対策だと思います。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

印象に残っているのは、家族や友人との関わり方の違いです。現地で仲良くなった友人たちは、家族とのつながりを非常に大切にしていて、週末は家族と過ごすことが当たり前になっていました。

また、友人と遊ぶ際には、その子の親や親せきが一緒に来ることもあり、家族ぐるみの交流が自然と行われていることに驚きました。

Ⅲ．留学希望者へのアドバイス

① 日本から持っていって、特に役に立ったもの

パソコンは必須で、持っていなければ授業に参加することができません。それ以外のものはほとんど現地で調達できるため、特別に準備する必要はありません。ただし、持病がある方は、薬を忘れずに持参することをおすすめします。また、自炊を考えている場合は、日本の調味料、特にポン酢を持っていくと便利です。フィリピンには「カラマンシー」という柑橘類があり、現地の友人と味の違いを楽しむこともできます。さらに、日本のお菓子や簡単なゲームを持っていくと、友人との交流のきっかけになりやすいと思います。

② 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

語学面では、特にリスニング力が飛躍的に向上したと感じています。毎日 6 時間、先生の英語を聞くことで、自然と話の内容を素早く理解できるようになりました。語学以外では、人との関わり方や考え方が大きく変わったことが挙げられます。前述の通り、現地の学生との交流を通じて、家族とのつながりや学業に対する姿勢など、多くの面で刺激を受けました。また、日本と比べてコミュニケーションの取り方にも違いがありましたが、それも含めて学びが多く、非常に貴重な経験となりました。

③ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

留学という大きな決断は、とても不安なものだと思います。特に、先進国ではないフィリピンには不安要素も多いかもしれません。しかし、日本とは全く異なる環境に身を置くことで、新たな価値観や考え方、文化に触れ、今までにない貴重な体験を得ることができます。私自身、飲料水の問題や交通量の多さなどで苦労したこともありましたが、つらかったことや留学を後悔したことは、滞在中も帰国後も一度もありません。現地で過ごした日々は、一生の思い出として心に残る素晴らしい経験になると思います。

Ⅳ．将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

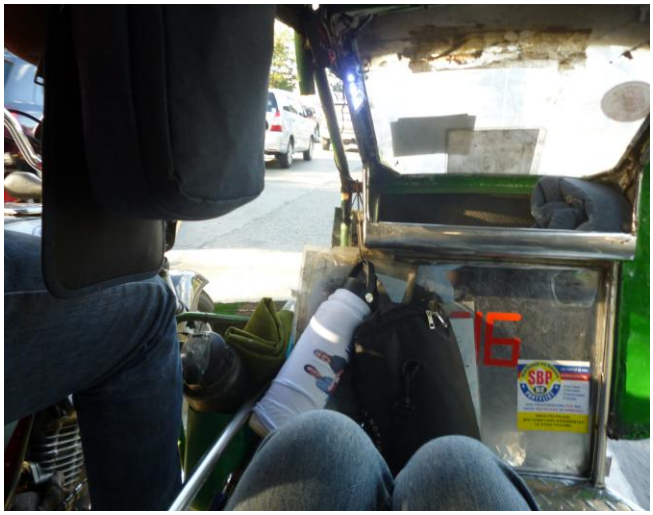
進路として英語を使う仕事をしたいわけではありませんが、業務の一環で英語を使える環境があれば良いなと思いながら、就職活動をしています。

将来の夢は、英語を学んだことを活かして、世界各国を旅行することです。留学で培った多くの経験や価値観を大切にし、さまざまな国の人々と交流していきたいと考えています。

Ⅴ．写真



この写真はフィリピンにあるプエルトガレラというところに行った時の写真です。海の青色がとても鮮明で綺麗でした。マニラと違って魚料理も多く、とても印象に残った旅行でした。



これはフィリピンのトライシクルという乗り物です。フィリピンに来たら、必ず乗ることになると思います。日本にはない乗り物なので、ぜひ一度体験してみてほしいです。

K.N.（日本語日本文学科・２年次生）

Ⅰ．留学レポート

① 留学を目指した理由

留学を目指した理由には、以下の 4 つがある。(1)大学に入学した時、何か新しいことに取り組みたいと考えたから。(2)コミュニケーション能力面で自分を成長させたかったから。(3)英語の成績や能力が伸びず、英語に触れるしかない環境に身を置いて勉強してみたいと感じたから。(4)コロナウイルスの影響で高校の修学旅行で海外に行くことができなかったが、一度海外に行ってみたいという気持ちがあったから。

② 留学決定から出発までの準備期間

TOEIC と英検を受験したことがなかったため大学で受験した。留学決定後も引き続き TOEIC 対策のテキストと単語帳、英語学習アプリを使って勉強した。ビザ申請はする必要がなかったが、パスポートを取得していなかったので用意した。

③ 現地到着後

空港に到着後、タクシーアプリのグラブを使ってタクシーを呼び、大学まで乗った。道路の状況によるが片道は約 1〜2 時間。寮に到着し手続きを済ませた後、部屋に案内された。オリエンテーションは授業が始まる日の朝に行われた。現地に到着してからビザを取得した。ビザの更新は大学外の施設で行った。

④ 語学研修機関

◆ 施設・環境・スタッフ

寮は大学内にあり、授業を受ける建物のすぐ近くで、道路を挟んで向かいだった。スタッフの方の説明が食い違っていたので他の留学生に説明を聞いた。12 月に一度荷物を全て片付けて寮を出なければならなかった。荷物をキャリーケースやダンボールに入れておくと寮に預かっておいてもらうことができる。その間はルームキーも返却する。寮内には共用キッチン、カフェテリア、ランドリーがあった。近くにもうひとつカフェテリア、ランドリーがあった。

◆ 授業内容、課題、試験

各学期の初めと終わりにオンラインで試験があった。内容は選択問題、文章作成、面談。授業は午前と午後で 4 技能の 2 技能ずつに別れていた。先生が午前午後それぞれ 2 人、合計で 4 人いた。課題は授業の続きを仕上げてくる内容のものが多かった。

⑤ クラブ、課外活動、ボランティア活動

アテネオ大学の生徒の発表をきいたり、校舎内の人にアンケートを行ったり、木を植えるボランティアや川の清掃のボランティアをした。

⑥ 現地での住まいについて

寮で生活したが、寮以外の場所から通うことも可能。食事はキッチンで作る、カフェテリアで食べる、グラブで注文する、買いに行く、外食など。寮から教室までは非常に近く、徒歩で 5 分もかからなかった。

⑦ 長期休暇の過ごし方

日本に帰国することが多かった。グラブタクシーを使って空港まで行くこともできるが、友人に送ってもらうことも多かった。新年はフィリピンで花火を見て過ごした。

II．留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

友人が増えたこと。友人達と一緒に共用キッチンでご飯をつくったこと。フィリピンに住んでいる友人たちとカフェや遊園地に行った時のことが最も思い出に残っている。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

最初の頃は授業中の英語が聞き取れず苦労した。授業中や後に質問をした。室内の温度がとても低く、半袖しか持って行っていなかったため辛かった。野菜をとれる機会が少なかった。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

銃を使った強盗の知らせが多く驚いた。世界的チェーン店のメニューが日本と違い驚いた。トライシクルを初めて利用した。

III．留学希望者へのアドバイス

① 日本から持っていって、特に役に立ったもの

パソコンを持参した。ランドリーは規定量より少ないと受け付けてくれなかったため、バスタオルや下着は多めに持っていくべきだと思う。初めの方は慣れていなくてバタバタしてしまうので、カップ麺など簡単に食べられるものがあると良い。

② 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

授業内容が理解できるようになり、外出先での必要な会話も可能になった。

③ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

完璧でなくても会話に挑戦してみることが成長に必要だと感じた。英語で日記を書くことで、能力向上はもちろん思い出にもなり、振り返りも容易になると感じた。

Ⅳ．将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

TOEIC 目標点数に届かなかったため、到達できるよう学習を進める。英語に触れる機会を無くさないようにする。

Ⅴ．写真



年明けに見た花火。様々な場所から長時間上がるため面白く、年越しまで起きてフィリピンでの新年を楽しむのも良いと思う。私は都心部のホテルで見た。イベントも行われ、音が大きくて眠れないという人もいた。海外での年越しが初めてだったので新鮮な気持ちになった。